

「生きる術を知る」



法学部長

橋本 基弘

Motohiro Hashimoto

モラトリアムという言葉がはやったのは今から30年以上も前のことであるが、今の学生生活は、社会に出る猶予期間どころではない。あまりに慌ただしく、もの考える余裕すら与えてくれない。

その中で、学生時代は諸君に何を残しただろうか。大学は今「社会人基礎力」とか「学士力」という表現で質を保障せよと求められている。しかし、あえて言うと、私たちが諸君に与えられるのは、時間であり、出会いでしかない。世の中のしがらみや利害から解放されて、自在に生きられる時間や良き友、悪い友人、恩師（と呼べる人に出会えたなら幸運であるが）との出会いでしかない。もし、きらめくような時間や得難い人との出会いがあったなら、諸君の学生生活は成功であったと言えるだろう。

世の中は厳しい。その厳しさは年々増していくようにすら感じられる。順風満帆の人生などないことを肝に銘じてほしい。世の中はまた、勝ちと負けの二項対立で割り切れるほど単純にできてはいない。かつて、イタリアの長寿村を取材したテレビ番組を観たことがある。気のよさそうな爺さんが長寿の秘訣を聞かれていた。質問に答えた老人は、「それは生きる術を知っていたからだよ」と茶目っ気たっぷりに笑っていた。

「生きる術を知る」とは、社会人基礎力や学士力よりも単純でいて、だいじなことなのではないだろうか。生きることはしんどいことではあるが、とにかく生きることがどれほど価値のあることか。その価値が分かれば、諸君が知り合った友人や師が生きることのスパイスとなっていくであろう。まず生き、そして生きることを楽しんでもらいたい。

卒業おめでとうございませす



経済学部長

関野 満夫

Mitsuo Sekino

経済学部卒業生のみなさん、卒業おめでとうございませす。

多くの方はこの4月から実社会に進んで、社会人としての一步を踏み出すことになると思います。その一方で、昨今の雇用情勢の悪化から、就職活動の継続を余儀なくされる方もいるかもしれません。いずれにせよ、大学卒業を機に新しい人生のステージに立つことになります。経済学部の教職員一同はみなさんの活躍を期待しております。

経済学部を卒業するという事は、学士（経済学）の称号を授与されるということです。今後、みなさんは周囲から経済学士としての実力を備えているとみなされます。その心構えはできていますでしょうか。経済学部で4年間学ぶことによって、みなさんは経済学の一定の体系的知識を身につけたことでしょう。と同時に重要なことは、授業やゼミ活動などを通じて、様々な应用能力や総合的判断能力を養ってきたはずで、学士に期待されるのは、この知識と総合的な应用判断能力なのです。

日本および世界の経済現象や社会現象は日々変化しており、大学で学んだ知識だけでは今後十分に対処できないこともあるかもしれません。その意味では、卒業で勉強から解放されると思うのではなく、卒業後も読書や教養の機会を活用して、知識と知的能力を不断に深めるよう努力してください。

最後に、今後とも健康に留意して、少しのことにくじけず、前向きに人生を歩んでいかれることを期待して、贈る言葉とさせていただきます。